参考様式A5（自己評価等関係）

公表　児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	のんきっず			
○保護者評価実施期間	R6年12月1日		～	R6年12月28日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	2	（回答者数）	2
○従業者評価実施期間	R6年12月1日		～	R6年12月12日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4	（回答者数）	4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年1月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日常的に充実した活動を行えている。 今年度はイベントを開催できた。	創作活動や外気浴など、季節に応じて活動を行っている。気候が良いときには障害の度合いに関わらずおでかけができている。 今年初の試みである地域との交流イベントを実施できた。（子供食堂と協同の夏祭り）	子供食堂との協同イベントは、今後も続けていきたい。地域の方に事業所を知っていただく大変良い機会と感じた。事業所としても、地域にどんな人たちがいるのか知っていきたい。 イベントを実施した後、交流やつながりを使ってどのように展開していくかが今後考えていきたい部分である。
2	スタッフが手厚く配置できている。	小規模多機能型の事業所のため、手厚くスタッフを配置できている。その日の利用人数や利用者の個性により、部屋の配置を区切ったりレイアウトを変更したりして、安全に支援できるよう工夫している。	室内の備品の見直しや不用品の処分など、現状に最適な環境を随時見直していく。例年、年末の大掃除のタイミングで不用品の撤去など行っている。次年度はより具体的な年間計画をもとに、環境整備を行っていきたい。
3	社内研修の機会を確保して、月に一度ミーティングの機会を設けている。	毎月第二土曜に障害事業部で集まり、ミーティングや研修を行っている。個別支援会議や、安全委員会でのヒヤリハットの報告・検証等を行うことで、スタッフの支援の質の向上に繋げたい。	実施している研修や安全管理に対する取り組み等を保護者にも周知していきたい。SNSやおたよりなどを通じて発信していき、より一層安心感をもって利用していただける事業所になりたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援の利用者からすると、同年代との繋がりが少ない。	小規模多機能の事業所のため、同年代の利用者同士で関わる機会を作ることが難しかった。 生活介護の利用者とは同じフロアで過ごすため、幅広い年齢の方と関わる機会にはなった。成人している利用者も、児童発達の利用者に対しては非常にやわらかい姿勢で接する様子など伺え、良い影響を与えてくれていると感じる。	幼稚園・保育園との交流をおこなうことや、前述した地域の子供たちと関わるイベントを主体的に実施するなど、開かれた事業所づくりを提案していこうと思う。
2	保護者へのPR不足。	事業所で行っている活動や、資質向上のための取り組みなど、保護者や外部関係者に伝わっていない。	イベントの周知、安全管理に関することなどを積極的に周知していく。現在SNSに掲載しているのは基本的に活動中の写真ばかりである。例えば、月末にお便りを発行する、LINEメッセージで定期的にお知らせするなど、工夫していきたい。
3	南海トラフ巨大地震などを含む、大災害に対する備え。	支援中に巨大地震等の甚大な自然災害が発生した場合、スタッフは適切な対応がとれるか。重症心身障害者を介助しながら避難しなければならない状況に、対処できるのか不安が残る。	巨大地震にそなえて、本社別部門のスタッフも一緒に避難訓練を実施できたことが良かった。また、今年度は災害対策用の備品を充足させることができた。「巨大地震注意」の警報もあり、震災に対して思考する機会となった。